

カンボジアへの小学校建設に向けて企画を話し合う植木社長（石から2人目）と学生たち（京都市南区・カスタネット本社）



カンボジアに小学校を

コピー機で使い終わったトナーカートリッジをリサイクルして得た利益を財源に、カンボジアに小学校を建設しようとの取り組みを、京都市南区の文房具販売会社が始める。インターンシップ（就業体験）中の学生も参加し、来年九月をめどに目標金額の達成をめざしている。

リサイクル利益財源

京の文具会社企画

「就業」の立命大生ら協力

「カスタネット」という会社で、昨年三月から中古文房具を回収してカンボジアに送るボランティア活動を続けている。今年三月、植木力社長が文具の使用状況を確めるためカンボジアを訪問した際、小学校が老朽化し、トイレなどの設備も整っていないのを見て、新校舎を建設しようとしたという。

建設する学校は、ブノンペン北約百キロのトレア村にあるトレア小学校で、建設に必要な費用は

約三百五十万円。この財源は、コピー機などの使用済みトナーカートリッジを回収してリサイクル業者に売却すると一本につき五十一・二百五十円程度出る利益をあてる。建設は国際開発救済財団（FIDR）が進める計画。

企画立案には、同社に八月から三カ月、就業体験している立命館大の学生四人が参加、取引先のトナー回収もする。植木社長は「現地の学校は雨漏りもして、ひどい状況だった。ビジネスを通してカンボジアへの社会貢献をしていきたい」と話している。使用済みトナーカートリッジ回収は同社 ☎075(681)9100へ。